

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - )

事業所番号	0690700174		
法人名	社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームはちもり		
所在地	山形県鶴岡市三瀬字菖蒲田64番2		
自己評価作成日	平成28年9月27日	開設年月日	平成26年4月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

24時間シートを使用して、それぞれの入居者が望む暮らしができるようなケアを提供していきたいと考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 10月 18日	評価結果決定日	平成 28年 11月 15日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域との繋がりを大切にして開設3年目を迎えています。リビングでは利用者が職員と共に昼食づくりの野菜刻みなどの手伝いがあり「ここは環境も良いし、凄く住みやすくて良いところだよ。できることはしないとね」と話す様子から生き生きとした姿が見られます。施設運営方針である「地域の中で誰もが支え合い 心豊かに暮らします」を掲げ、ボランティアによる歌や踊り、畑づくり、散歩、話し相手などの協力もあり大きな支援の輪が広がっております。職員も更なる自己研鑽を重ね、利用者が住み慣れた地域で安心して過ごせるよう懸命に取り組んでいる事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成している。また、各会議の際に理念を唱和するなど、その理念を共有して、実践につなげている。	年度初めに理念や施設運営方針についての研修や毎月のグループホーム会議で唱和し、振り返りながら実践に繋げている。個別ケアを大切に一人ひとりに合わせた関わりを心がけ、利用者の笑顔が見られるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店やスーパー等へ入居者と職員が買い物に行ったり、鮮魚店・精肉店・野菜屋さん(地元の産直)・新聞屋さん・ヤクルト屋さん等が施設に来ている。また、入居者への面会などで地域の方が来るなどして、日常的に交流している。	近くの小学校の運動会や地区の各種行事へ利用者も一員として参加し、また、法人内の夏祭りや芋煮会などで人々と常にふれあい喜びに繋がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーへ買い物に行ったり、地域の運動会や孟宗祭り等に行き、認知症の人の理解や支援の方法について発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議では、家族や入居者を交え、グループホームでの入居者の様子や、ケアの取組み状況等について話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	取組みの状況をスライドで観てもらい、実りのある会議となっている。事故なども隠さずに報告し、理解を得てもらい信頼に繋げている。時には出席者も利用者と共に食事を兼ねる工夫もしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターより参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えている。また月に2回、市の介護相談員を受け入れており、ケアサービス向上に向けて協力関係を築いている。	市主催の研修会やグループホーム連絡協議会へ参加し、日頃から情報の共有を図っている。疑問点やオムツ支給のことなどでも助言をもらい、双方向的な関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束をしないケアについての研修を行い、入居者の尊厳を守り、安全に過ごしていただくための取組みを職員間で共有し実施している。	研修を通して毎月のグループホーム(職員)会議で共有し、言葉の拘束なども全員が正しく理解している。帰宅欲求などが見られる場合は一緒に散歩や好きな事をしてもらうなど、安全にも配慮しながら自由な暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県で開催する研修会に参加し、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、職員間で共有している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県で開催する権利擁護に関する制度についての研修会に参加し、職員間での情報の共有を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分に時間を取り、説明を行うことで理解・納得していただけるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や要望には常に耳を傾け、思いを受け止めるようにしている。また、日々の面会時やサービス担当者会議等で意見・要望等の確認を行っている。事業所として、苦情受付の体制を整えており、契約時に説明している。	来訪される家族等も多く生活の様子を細かく伝え、話しやすい雰囲気づくりに配慮し、信頼関係を築くよう努めている。散歩をさせて欲しいなどの要望をサービスに反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議を通して、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を通して、職員が目標や、やりがい、向上心を持てる職場環境になっている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価及び上司からの評価を通して、職員一人ひとりのケアの力量を把握し、必要な研修を受ける機会がある。また、資格取得につながる制度がある。	年間予定に沿い、外部講師を依頼するなど毎月様々な研修を行い意識高揚に繋げている。職員は年度初めに個人目標を立て達成度を振り返り、上司と面談するなど切磋琢磨しながら、更なるスキルアップを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に入会しており、職員が同業者と一緒に研修を受けるなど、交流する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。	山形県高齢者認知症グループホーム連絡協議会へ加入し、研修会へ職員も参加してケアに活かしている。情報交換を通して悩みを共有するなど、客観的な視点や気づきに繋がりサービスの質向上に励んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時及び入居時、入居者が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、入居者の安心につながる関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時及び入居時、家族等が困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、十分に説明を行い、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等の意向を十分に確認し、ケアプランに反映させている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの入居者ができることを見極めたうえで、できることをして頂くことにより、暮らしを共にする入居者同士が支え合う場面を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の絆を大切にしながら、日々の情報交換を通して、共に本人を支えていく関係を築いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生活歴を把握し、入居前までの生活を継続できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、食卓を同じ場所にしたたり、調理や後片付けなどをなるべく一緒に行っていたりすることで、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや24時間シートを使用し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	情報収集する上でどのような暮らしを望むのか、本人のできることなどの生活目標に留意し、一人ひとりの24時間シートにまとめ意向の把握に努めている。料理の手伝いなどをすることで利用者の喜びになり輝いている様子が見られる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや24時間シートを使用して一人ひとりの生活歴や、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を把握し、ケアに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを記録するとともにグループホーム会議で各入居者の情報を共有している。また、24時間シートを作成し、一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態等を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らすための課題とケアのあり方についてグループホーム会議等で話し合うとともに、入居者・家族・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映してケアプランを作成している。	毎月のグループホーム会議で支援方法や課題を話し合い、サービス担当者会議では家族、医師、看護師、栄養士、作業療法士などの意見も反映させて、利用者の思いを大切に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践とその結果、気づきや工夫等を個別に記録している。その記録をもとに、グループホーム会議にて職員間で情報を共有しながら、実践やケアプランの見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりが継続できるよう、地域のスーパー等に出かけ、顔なじみの関係となることや、施設の炊作業の指導等を地域の人にして頂く等、入居者が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援に取り組んでいる。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診を継続できるよう支援している。入居者が受診する際、グループホームでの生活状況等についての文書を家族に渡し、医療機関と事業所で情報の共有が図られるよう支援している。	かかりつけ医への受診は家族等同行を基本にしている。医師へは利用者の体調等を記載した書類を情報提供し、結果は口頭で家族等から聞き取りをしている。また往診の医師からは、直接指示を得て家族等へその都度報告をしている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを記録し、必要に応じて職場内の看護職員と連携して、入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、その入居者のグループホームでの生活の様子を医療機関に報告している。また、退院日の調整や退院後の受け入れ体制や支援方法等について話し合いの場を設ける等して、医療機関との連携に努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、入居者が重度化した場合や終末期のあり方について、家族等と話し合いを行い、家族の同意を文書で頂いている。また、状況に応じて、カンファレンスを行い、事業所でできることを十分に説明しながら支援している。	入居時に利用者や家族等への説明を行い、グループホームにおける重度化対応に関する指針に基づいた対応をしている。状況に合わせてその都度話し合い、利用者や家族等の意向を踏まえて医師、職員の連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、職員は応急手当や初期対応についての研修を受け、マニュアルを参考に実施できるようにしている。また、救急救命講習を毎年全職員が受けている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や研修を通して、災害や地震、水害等の災害時に、入居者が避難できる方法について全職員が知るとともに、地域の訓練等への参加や、運営推進会議において地域への協力も呼びかけている。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を守る言葉かけや対応ができるよう、研修を行い、ケアに活かしている。		人格の尊重や尊厳を守るために接遇等の研修を重ねている。利用者それぞれの考え方や目的に合った話題等を職員会議で共有し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや守秘義務を職員に徹底している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者が自己決定できるよう、食事や買い物、入浴等についても働きかけを行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートを使用し、入居者一人ひとりのペースを大切にして、希望にそった支援をしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、美容師に髪を切ってもらうなど、その人らしい身だしなみや、おしゃれができるよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どんなものが食べたいか入居者に相談し、食事が楽しみなものになるようにしている。また、一人ひとりの力を活かしながら、可能な限り、利用者と職員と一緒に買い物や食事の準備、片づけ等をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調維持に必要な食事量や栄養バランスについて、栄養士と連携して、入居者一人ひとりに適した形態の食事を提供している。また、必要な水分量を確保できるよう、一人ひとりの状態や力、嗜好や習慣に応じた支援をしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないように、一人ひとりの口腔状態や本人の力、これまでの習慣に応じた口腔ケアをしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿測(排泄のアセスメント)を行うことで、一人ひとりの能力や排泄のパターン、習慣等を考慮して、快適に生活できる支援を行っている。	しぐさ等から感じ取り、周囲に気づかれないようさりげない誘導をしている。トイレ脇に手すり替わりの椅子を置き、またベッドをトイレ側に近づける等の工夫を行い自立支援に繋げている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	隣接する施設の栄養士よりアドバイスをもらい食事作りに活かしたり、乳酸菌飲料やヨーグルト、ミネラルウォーター等を定期的に摂っていただいたり、適度な運動をしていただく等、自然な排便に向けた取り組みをしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人ひとりの希望にそって入浴していただいている。	利用者の希望と併せて「清潔に・リラックスに・湯温に」心がけ、気持ち良く入浴してもらえるよう配慮している。洗えるところは自分でしてもらい自立に繋がる支援と、脱衣室や浴室の温度差を無くす暖房器具で健康管理に努めている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを使用し、入居者一人ひとりの生活リズムを把握した上で、寝具・部屋の温度や湿度・照明等の睡眠環境の検討を含め、快適に休んでいただけるようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬について情報を把握し、ケアにつなげている。薬の変更があった場合は、入居者の状態の把握に努め、次の受診時に医療機関に報告している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに得意なことをしていただくことで、役割感を感じていただくことができるようにしている。また、個別での外出支援も行っており、楽しみや気分転換につなげている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のようにスーパーに買い物に出かけたり、入居者の希望にそって個別でも外出できるようにしている。また、家族とも協力しながら、外出や外泊ができるよう支援している。	ボランティアの継続もあり日常的な散歩や、家族等の協力を得て月に数回の外出外泊を応援している。歩行困難な利用者もスーパー等に出掛け、また冬季間の外出にも積極的な支援をしている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つことの大切さについて職員間で話し合ったり、家族にも説明をしている。また、個人の買い物は個人で支払いができるように努めている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が好きな時に家族等に電話をすることができたり、手紙等のやり取りができるように支援している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適で、生活感のある環境を提供することで、入居者が安心でき、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	明るさ・温度・湿度に配慮し、観葉植物や椅子等の配置を行い心地よい環境づくりをしている。また食卓と畳敷の場を、ソファの背もたれで目隠しをして、冬期間は炬燵を設けゆっくりと安心して寛げる工夫をしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の談話コーナーやリビングのソファなど、共有空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような空間になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、入居者や家族と相談しながら、思い出のアルバムや家具、自宅で使用していた身の回りのものなどを持ち込んでいただくことで、入居者が居心地良く過ごしていただけるようにしている。</p>	<p>窓側は東向きで朝日が見られるよう、また畑や田植え稲刈りの田園風景を望む風光明媚な環境の中で過ごせるように設計配慮されている。午前中に運動を兼ね職員と一緒に掃除をして清潔を保っている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の洗面台には、両脇に物を置くスペースがあり、歯ブラシやコップ・入れ歯や化粧品等が自由に置け、自由に使えるようになっているため、自立支援につながっている。</p>			